

「ハワイ固有植物庭園」について

「イミロア天文学センター」の素晴らしい固有植物庭園は、ハワイ大学ヒロ校「Ka Haka 'Ula O Ke'elikōlani」ハワイ語学部ならびに造園技師であるランドール・モナガン氏との共同取り組みの成果です。

当庭園で迎えてくれるのはハワイの固有植物や古代ポリネシア人がハワイ移住時に持ち込んだ「カヌー植物」などの原生植物。これらの植物の中には一般に見られる植物だけでなく非常に珍しい固有種などもあります。

庭園の至るところに標識が設置されています。これらの標識には、植物のハワイ語名および植物分類が下記の通り表記されています。

- ハワイ諸島にしか生息していない「ハワイ固有種 (endemic: 'āpa'akuma)」
- ハワイを含む広域に生息する「広域分布固有種 (indigenous: 'ōiwi)」
- ポリネシア伝統植物/カヌー植物 (Polynesia introduced: Polonesia)

Nu'ukia イミロアの使命

ハワイ文化とマウナケアの天文学の発展を称え、ハワイ文化と科学を結ぶ、きわめて重要な架け橋となり、世界の人々と共に深い知識と理解をもつことを目指します。

固有植物と類似した植物はポリネシアの至るところに生息しており、これらの植物はタヒチ、マルケサス諸島、ラロトンガ島、イースター島(ラバヌイ)といった地域で目にすることができます。よく、「固有種」という分類を耳にしますが、固有種とはもともと自生している植物のことで、下記の2種類に分けることができます。

- 「Endemic('Āpa'akuma)」は長い年月をかけてハワイ固有の姿に変化した、「ハワイ固有種」です。これはハワイ諸島にしか生息していない植物で、その中にはハワイ諸島内の特定の地域にしか生息していない種もあります。人の定住前からハワイにあったとされる1,000種類あまりの全固有種の9割はハワイ諸島でしか見られない「ハワイ固有種(Endemic)」だといわれています。
- 「Indigenous('Ōiwi)」はハワイを含む他の地域、つまりある一定地域にある「広域分布固有種」です。これらの植物の種子はハリケーンやジェット気流などの強い風、海流、鳥によって運ばれました。これらの植物はハワイ特有の姿に進化することなく繁殖したものです。ハワイ諸島以外にも自生している、これらの「広域分布種 (Indigenous)」はハワイ諸島に生息する全固有種の1割を占めています。

これら原生植物の多くが「クムリポ(ハワイ創世神話)」の中で取り上げられています。クムリポシアターで「ハワイ創世神話」のチャント(詠唱)に耳を傾けてみてください。

- 「ポリネシア伝統植物」は別名「カヌープラント」とも呼ばれています。これらは古代ポリネシアの航海者たちが「wa'a kaulua(ダブルカヌー/双胴船)」に積んでハワイに持ち込んだ植物です。イミロアの「カヌー植物エリア」では36種類のカヌープラントをご覧ください。
- イミロアでは2箇所の「キープカ(噴火で流れ出した溶岩に埋め残された土地/原生植物の安らぎの場)」を保存・保護しています。最も代表的な「キープカ」は、レストランの窓越しに見える場所にあります。「タコノキ」に囲まれた溶岩や溶岩の割れ目から「オヒアレファ(フトモモ科)」の根が生えているのが見えます。

ハワイ 固有植物 庭園

Hi'onaina'ōiwi

受賞経験のある、イミロア天文学センターの「ハワイ固有植物」庭園を散策しましょう。ここではハワイ本来の生態系を垣間見ることができます。この屋外展示は約7,000坪の広大なエリアに70種類以上のハワイの原生植物を集めた、ハワイ州最大規模の固有植物庭園です。



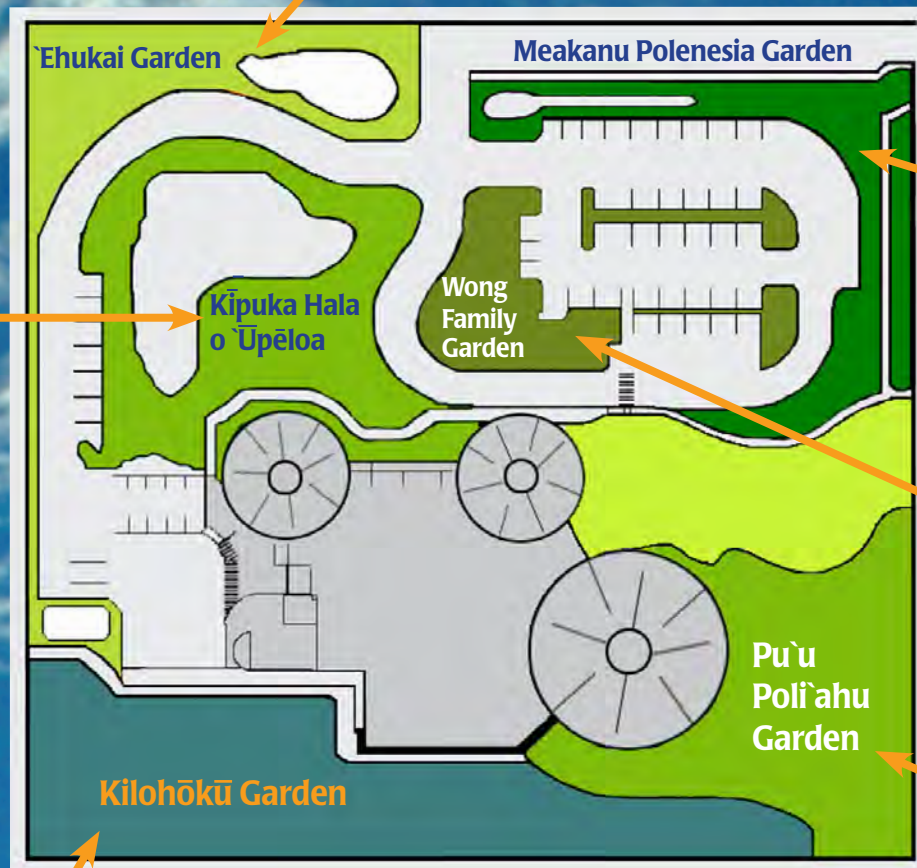
**「ウーペーロアの
タコノキ キープカ
(Kīpuka Hala o
'Ūpēloa)」**

この「キープカ(原生植物の安らぎの場)」はイミロア建設中に保存・保護されたものです。ここに生育する固有種の「オヒアレファ」は樹齢50~100年程で、レファの花には赤色のほかに黄色やオレンジなど、様々な色があります。この場所の名前は「ウーペーロア」と呼ばれたこの地域で見つけられた「タコノキ」の美しさを表しています。



「海の眺め('Ehukai)」庭園エリア

イミロアの入り口に向かう道路脇ではハワイ固有の沿岸植物をご覧いただけます。主に海岸付近に生育する、半円状に咲く花びらが特徴の「ビーチ・ナウパカ」、**「ミロ(アオイ科サキシマハマボウ)」**や**「コウ(ムラサキ科コーデリアサブコルダータ)」**などをお楽しみください。



**「ポリネシア伝統植物/カヌー植物
(Meakanu Polonesia)」庭園エリア**

これらは食用、衣料用、薬用、建材をはじめ、様々な用途のために栽培された植物で、東ポリネシア人によって持ち込まれました。「ポリネシア伝統植物(カヌー植物)」の一例はカロ(タロイモ)で、これはハワイアン主食であるポイの原料でもあります。

「ウォンファミリー薬草(Lā'au Lapa'au Wong Family)」庭園エリア

これらは古代のハワイの人々の健康には欠かせない植物で、根、葉、樹皮、果実などが、薬用として利用されました。ハワイ固有種の「ママキ(イラクサ科)」をご覧ください。ママキは体内の浄化を助けると信じられており、乾燥させたママキの葉を原料とするお茶は胃腸、膀胱、肝臓疾患の治療のために用いられました。

「ポリアフの丘(Pu'u Poli'ahu)」庭園エリア

この庭園はハワイ島マウナケア山頂に住む、雪の女神「ポリアフ」にちなんで名付けられました。バラのような白い小さな花と白い果実が特徴の「ウーレイ」をご覧ください。ここには「オヒアレファ」やハワイ固有種の「ネネレアウ(ウルシ科)」が生育する「キープカ」があります。



「天体観望(Kilohōkū)」庭園エリア

この庭園ではヒロ湾の素晴らしい光景をお楽しみいただけます。数々の甘い香りのする原生植物をはじめ、絶滅寸前の固有種の「ナウ(クチナシ)」や「コキオケオケオ」と呼ばれるハワイ固有種の白いハイビスカスをご覧ください。